

老年看護学

[講義] 第2学年～第3学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 山田 律子(看護福祉学部 rich@hoku-iryo-u.ac.jp) 内ヶ島 伸也(看護福祉学部)
若濱 奈々子(看護福祉学部) 船橋 久美子(看護福祉学部) 鈴木 英樹(リハビリテーション科学部)

【概要】

老年期を生きることの意味と価値について考えると共に、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴をふまえた看護やエンドオブライフ・ケアについて理解を深め、高齢者と家族に対して多職種と協働しながら看護活動を展開・創発するために必要な知識とケアの視点を学ぶ。

【学修目標】

1. 老いの意味と価値を理解し、心身機能の加齢変化をふまえた健康アセスメントの視点やエンドオブライフ・ケアについて説明できる。
2. 高齢者の生活機能に関するアセスメントとケアを学び、看護活動を展開・創発するために必要な視点について説明できる。
3. 高齢者と家族を支える保健医療福祉制度および多職種協働による地域包括ケアの重要性について説明できる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

【実務経験】

山田律子(看護師、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)、若濱奈々子(看護師)、内ヶ島伸也(看護師)、船橋久美子(老人看護専門看護師)、鈴木英樹(理学療法士)、三浦直子(老人看護専門看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

老年看護の実務経験に基づき、老いの意味と価値、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化をふまえた生活機能のアセスメントとケアの視点を教育する。特に高齢者の運動機能のアセスメントでは理学療法士が、高齢者のエンドオブライフ・ケアでは多職種協働による質の高いケアを老人看護専門看護師が、実践的に教育する。